

ご当地ナンバーの導入にかかる地域名表示の追加要望（案）

要望する新たな地域名表示
「雪国魚沼」
地域名表示の概要
1. 新たな地域名表示を要望する理由及び図柄を導入する理由
雪国の文化を共有し、雪によって育まれた産業や、雪を利活用することによって社会生活を営んできた私たちの地域にふさわしい新たな地域名「雪国魚沼」の表示に加え、地域の特性を図柄に表した新ナンバープレートを導入することにより、地域全体の魅力の発信とブランド力の向上が期待され、対象となる地域の一体的な振興と観光振興に大きく寄与することが見込まれるため。
2. 対象となる市町村及び当該市町村が地域特性や経済圏等に関して、一定のまとまりのある地域である理由
【対象となる市町村】 南魚沼市、十日町市、魚沼市、湯沢町、津南町 新たな地域名表示を要望する「南魚沼市」、「十日町市」、「魚沼市」、「湯沢町」及び「津南町」の行政区域は、明治時代に北魚沼、中魚沼、南魚沼の郡区に編成され、現在に至っているが、中世においては、地域一帯を魚沼郡と称した。それぞれの地域で雪国特有の文化を育み、それらを固有の地域資源として産業を興し、発展させてきた。現在も雪国観光圏（新潟県魚沼市、南魚沼市、湯沢町、十日町市、津南町、群馬県みなかみ町、長野県栄村の3県7市町村にまたがる広域観光圏）を形成し、互

いに連携しながら地域振興・観光振興に一体的に取り組んでいる。

また、魚沼産コシヒカリの産地に、対象地域のすべての市町が含まれており、共通のブランドとなっている。

J R 上越線、J R 飯山線及び北越急行ほくほく線の沿線市町として互いの往来が盛んであり、加えて、関越自動車道、国道 17 号、117 号、353 号及び八箇峠道路等の交通網が整備され、通勤・通学はもとより、さまざまな分野において一定の生活圏を形成している。

3. 対象となる市町村の調整状況

地方版図柄入り新ナンバープレートの導入に向け、対象地域の市町の首長で組織する「魚沼圏域版新ナンバープレート導入実行委員会」を平成 29 年 8 月 24 日に設立し、基本的な合意形成を図った。

4. 対象地域内の登録自動車数及び

10 万台以下の場合は、知名度の考え方

【対象地域内の登録自動車数】

66,105 台（平成 29 年 3 月 31 日現在）

（内訳）南魚沼市 24,022 台

十日町市 18,883 台

魚沼市 15,524 台

湯沢町 4,014 台

津南町 3,662 台

【知名度の考え方】

「魚沼」の名称は日本一おいしい米の産地として全国的に高い知名度を有する。一般財団法人日本穀物検定協会の食味ランキングで平成元年度以降 28 年間にわたり「特 A」を続けているのは、全国の産地品種銘

柄の中で魚沼産コシヒカリのみであり、特に、いわゆる平成の大凶作と言われた平成5年産米において、特Aは唯一、魚沼産コシヒカリのみであった。これらのことから、「魚沼」の名称は、おいしい米の産地としてブランド化されており、実績、知名度ともに日本一を自負する。

また、当地域には、日本海側から流れ込む暖かく湿った空気が周囲の苗場山や谷川岳にぶつかることにより、上空で冷やされ、湿り気のある多くの雪がもたらされる。そのため、しばしば降雪・積雪状況等が報道機関により全国に発信され、日本有数の豪雪地として知られている。降雪量や積雪量の報道は、雪国の厳しさを強調しがちだが、本来、雪は多様な恵みをもたらす重要な地域資源であり、その恩恵により、この地域に現在も17万人もの人々が暮らし続けることができている。

魚沼産コシヒカリはもとより、国の重要無形文化財に指定され、ユネスコ無形文化遺産になっている越後上布、各地のスキー場や大小さまざまな温泉地、多くの蔵元による地酒の数々など、雪がもたらす恩恵は枚挙にいとまがなく、それらの地域資源はそれぞれにおいて全国的な知名度を有する。この地域に年間1,200万人の観光客の入込があることが、それを証明している。

県の平成28年度外国人宿泊数調査によると、県内の地域別の外国人宿泊数は魚沼地域が最も多く、約82,000人泊と県全体の42.4%を占めている。そのうち、およそ85%は台湾、中国などのアジア地域であり、冬のスキー観光シーズンを中心に多くの観光客が訪れて雪文化を体験している。平成27年度に比べ11.9%増加しており、アジア周辺諸国を中心に知名度が向上している。当地域内の苗場スキー場では、平成28年にアルペンスキーのワールドカップが開催された。国内で10年ぶりの開催となった大会には、連日、国内外から大観衆が訪れ、その模様は世界各国に配信されたことから、スキーやスノーボードといったレジャ

ー・スポーツが楽しめる地域として国内外に周知された。

昭和43年にノーベル文学賞を受賞した川端康成の代表作「雪国」は、当地域の湯沢町が舞台となっており、「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」という冒頭文の情景描写はあまりにも有名で、日本文学の代表作として、数多く映画化、テレビドラマ化されている。また、ノーベル文学賞の受賞対象作品として世界各国で翻訳版が出版され、現在も広く親しまれている。これらのことから、当地域は、国内外において「雪国」、あるいは「スノーカントリー」（小説「雪国」の英訳題名）の舞台として高い知名度を有する。

5. 地域振興・観光振興の中での「ご当地ナンバー」の位置づけ、活用方策

新たな地域名「雪国魚沼」と当地域をイメージする図柄入りのナンバープレートを取り付けた自動車が全国各地を走行することにより、地域の名称や地域資源が明確に視覚化されるため、当地域に関心を寄せる動機付けとなり、交流人口の増加や地域産品の購買促進につながる事が期待される。

また、これまで取り組んできた雪国観光圏など地域の観光振興施策と併せて、当地域が共有する雪国文化のすばらしさや魅力などを発信することにより、相乗的な効果が発揮され、雪から連想される地域イメージの向上とブランド力の強化による観光産業の更なる活性化が図られる。

当地域は、雪まつりなど雪そのものを楽しめる観光イベントのほか、スキー場などのレジャー・スポーツの施設に加え、温泉、棚田、雲海など日本らしさを感じさせる四季折々の自然景観や雪が育んだ独自の食文化を有し、インバウンドで求められる日本の雪国の魅力を備えた地域である。新潟空港からはもとより、首都圏とも自動車や新幹線を利用し、

比較的短時間の往来ができるため、「雪国＝魚沼圏域」のブランド化を更に進めることにより、国際的な知名度の向上とインバウンドの増加を図る。

さらに、当地域では、日本一の野外ロックフェスティバルとして聖地化され毎年7月下旬に開催される「フジロックフェスティバル」や、国際芸術展として3年ごとに開催される「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」、昭和25年に始まり、現代雪まつりの発祥の地とされる「十日町雪まつり」など、国内外に知名度が高いイベントが多数開催されている。

このような各地に点在する魅力的な地域資源等を、「雪国魚沼」ナンバーという新たな共通のツールによって特徴あるひとつのエリアとして視覚化し、当地域の情緒的価値を高めることにより、地域経済を支える人・物・流通・情報などあらゆる分野の量的、質的向上につなげ、地域間の競争においても優位性を発揮する原動力とする。これにより、すでに雪国に関連付けられた地域産品をはじめ、地域資源等を活用した新たなイベントや商品開発、関連産業の拡大、起業・創業の促進など、地域経済の再生と好循環の拡大が期待される。

これらを行政、住民、企業がそれぞれの役割分担と相互連携によって戦略的に実行することにより、広域的な地域振興が図られるとともに、地域の一体感が高まり、住み続けられるふるさととして、当地域への愛着と誇りが醸成される。